



笠岡市の小中一貫教育の特色ある教育課程「地域学」



「地域学」ってなあに？

「地域学」は、地域や笠岡の自然、歴史や風土のよさ、人々の想いや願いに触れ、地域や笠岡を愛し、誇りをもつとともに、その発展に寄与する人材の育成を目指す 郷土を舞台にした学習です。



郷土を愛する心を育てるのは何のため？

これからの子供たちが直面する社会は、絶え間ない技術革新やグローバル化が人間の予測を越えて進み、将来を見通すことがますます難しくなっています。このような時代に、子供たちが夢や志をもって生きていくためには、その心身を支える土台が必要です。自分が生まれ育った郷土は、その後の人生を送る上で心のよりどころとして大きな役割を果たします。郷土について学ぶことは、郷土に対する愛着や誇りを育み、子供たち自身の自信や意欲につながっていきます。子供たちが自らの可能性を發揮し、より良い社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるよう願っています。

義務教育9年間を通して系統的・発展的に学び体験します。

<小1～小4>

地域のよさに気付き、地域に親しむ



生活科「まちたんけん」!

小学校2年生は、生活科の学習で町探検に出かけ、町のいろいろな所を知り、町の人と交流します。

(写真：笠小2年)



ぶどう名人さんに教わる!

陶山小学校の3・4年生はぶどう作りを体験しています。収穫するまでの手入れの大変さを乗り越え、9月には、あまーいぶどうを収穫しています。

<小5～中1>

地域を深める
市内を深める



ふるさと調査隊!

吉田小学校の6年生は、地区内の「大塚古墳」「高称寺」「石田三成遺児の墓」を巡り、吉田の歴史にふれることにより、自分のふるさとへの誇りを育てています。

<中2～中3>

市のよさを広める



笠岡東中オリジナルケーキ発売!

笠岡東中学校3年生のスイーツパラダイスチームが、笠岡の魅力スイーツで伝えようと、市内の農家やケーキ屋さんの協力を得て、オリジナルケーキを考案しました。9月10・11日の2日間で販売し、大盛況でした。



北木島でボランティア!

大島中学校3年生のグループが、8月4日に北木島の「光劇場」の掃除や草取りをしました。観光客が多い北木島で何か役に立ちたいという思いから、地域のおばあちゃんたちと一緒に汗を流しました。

小中一貫教育に取り組む先生たちの姿



8月5日(金)に、大阪教育大学教授 木原俊行先生を講師にお迎えし、笠岡市小中一貫教育研修会を開催し、市内の小中学校の先生113名が参加しました。

木原先生には、平成29年より笠岡市の小中一貫教育の推進についてご支援をいただいています。

今回の研修会では、先生方の小中一貫教育に対する意識調査をその場で行ったり、取組の好事例をたくさん紹介していただいたりして充実した研修会となりました。

参加された先生方のアンケートの抜粋

★小中一貫教育が子供の学びに直結しているとつくづく感じました。小中学校の交流、9年間の一貫したカリキュラムの作成、学習の指導方法、地域学などできることから少しずつ取り組んでいくことが必要だと思いました。

★講演の中で、「小中一貫教育が以前より進んでいますか」という木原先生の問いで思い出したのは、数年前とは生徒が変わってきているということです。小

中でそろえてやっていることが身に付いているので、中学校ではその継続で指導ができます。

★小中一貫教育を進めていく上で課題となるのは時間の確保です。子供たちが交流して学習する時間、小中の教職員が交流して研修する時間など多くの時間が必要です。小中一貫教育を進める上で大切なことは、小中学校の教職員がお互いのことを知ることかなと思っています。そのためにも、教職員の意識改革が重要だと改めて感じました。

小中一貫教育とコミュニティ・スクール



8月18日(木)に、学校運営協議会の委員さんや先生を対象にした研修会を開催しました。昨年度、中学校ブロックに学校運営協議会(保護者や地域の代表、学校が学校運営や必要な支援に関する協議を行う会)を設置しました。この制度を導入した学校をコミュニティ・スクールと言います。コミュニティ・スクールでは、学校だけでなく地域も一体となって各中学校ブロックの学校運営上の課題などについて解決策を話し合います。そこで、笠岡市のコミュニティ・スクールを充実させていくために昨年度から研修会を開催しています。

今回は、北海道小樽市立朝里中学校 校長 森万喜子先生の講演をオンラインで視聴し、その後、参加者で意見交換を行いました。

講演では、コミュニティ・スクールは、学校、保護者、地域がそれぞれの役割を自覚して一緒に子育てをしていく仕組みであり、学校の最大の応援団であり、辛口の友人でもあると話されました。

参加された委員さんのアンケートの抜粋

- ◆子供を支えるための組織として、実のある学校運営協議会になるように、内容等を中学校ブロックで連携して考えていきたい。
- ◆問題点解消につながるような学校運営協議会になるとよい。そのためには、回数を重ねる必要があるかもしれない。
- ◆笠岡市は、委員の選任があて職が多い。次回、選任するときは若い方も必要。
- ◆公民館の行事と生徒を結ぶ取組ができればと思う。◆学校と地域のつながりを大切にして広げていきたい。
- ◆子供は地域で育っていくもの。日々のあいさつを通じて子供たちを育てていきたい。
- ◆金浦中学校ブロックは施設一体型小中一貫教育校になるので、各学校の特性をいかに生かしていくかが検討課題である。